

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
研究協力報告書

統合失調症の認知行動療法の普及に向けて

研究協力者 菊池 安希子 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

研究要旨：

【目的】本研究では、CBT for Psychosis の効果測定に標準的に用いられている Psychotic Symptoms Rating Scale (Haddock, 1999) 日本版 (PSYRATS-J) の信頼性・妥当性を検討した。

【方法】精神保健専門家に PSYRATS-J 研修を実施し、その上で PSYRATS-J 面接の順逐語録（属性や個人名を削除 / 変更した逐語録）4 例の PSYRATS-J 評価を行ってもらい、その結果から評価者間信頼性を算出した。統合失調症の患者を対象に、PSYRATS-J と PANSS 下位尺度との相関係数を算出することで、併存的妥当性を検討した。また、PSYRATS-J の幻聴尺度と妄想尺度それぞれの Cronbach's α を求め、尺度としての内的一貫性を確認した。

【結果】PSYRATS-J 評価者間信頼性としての級内相関係数は 0.86 であった。20-65 歳の統合失調症患者 55 名で検討した結果、PSYRATS-J 幻聴スコアの Cronbach's α は 0.94、PSYRATS-J 妄想スコアの Cronbach's α は 0.87 であった。PSYRATS-J 幻聴スコアの合計は、PANSS の「幻覚による行動」と有意な相関を示し、PANSS 陽性症状の合計点とも、有意な相関を示した。PSYRATS-J 妄想スコアの合計は、PANSS の妄想スコアと有意な相関を示し、陽性症状の合計点とも有意な相関を示した。

【結論】PSYRATS-J は、十分な内的一貫性、評価者間信頼性を示し、精神病測定尺度との併存的妥当性を示した。今後の本邦における CBT for Psychosis の効果研究において有用なアウトカム尺度の一つになると考えられる。

研究協力者

小山繭子

(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

朝波千尋

(国立精神・神経医療研究センター病院)

A. 研究目的

CBT for Psychosis (CBTp) は、諸外国の統合失調症ガイドラインにおいて推奨される心理的介入である。しかし、本邦においては、関連書籍も増え、ようやく実践への関心が高まってきたところである。本研究班では、今

後、CBTp を普及させる際に有用と考えられる Psychotic Symptoms Rating Scale (Haddock, 1999) の日本版 (PSYRATS-J) の信頼性・妥当性を検討した。

PSYRATS は、幻聴についての 11 項目と、妄想についての 6 項目から成る半構造化面接である。統合失調症の陽性症状の客観評価ではなく、苦痛度や確信度など精神病体験の主観的側面に注目していることが特徴である。幻聴や妄想が消失しなくても、苦痛度が減少したり、コントロール可能性が上がったりすることが CBTp の効果として観察され

ることがあり、こうした症状の主観的側面の変化を量的に捕らえることを目的として PSYRATS は開発された。

B . 研究方法

まず、10 名の精神保健専門家に PSYRATS-J 研修を実施し、その上で PSYRATS-J 面接の準逐語録(属性や個人名を削除 / 改変した逐語録) 4 例の PSYRATS-J 評価を行ってもらい、その結果から評価者間信頼性を算出した。

次に、平成 26 年度に報告した統合失調症の認知行動療法導入プログラムの前後比較試験のデータの 2 次解析のかたちで、PSYRATS-J と PANSS 下位尺度との相関係数を算出することで、併存的妥当性を検討した。また、PSYRATS-J の幻聴尺度と妄想尺度それぞれの Cronbach's α を求め、尺度としての内的一貫性を確認した。

PANSS 評価は主治医が行い、PSYRATS-J 評価は心理士が実施した。統計解析には、SPSSver21 を用いた。

C . 研究結果

PSYRATS-J の評価者間信頼性の評価に参加した精神保健専門家は、職種としては、精神科医 2 名、臨床心理士 8 名であり、性別は男性対女性が 5:5 であった。臨床経験年数の平均は 12.60 (SD=6.45) 年であった。評価者間信頼性としての級内相関係数は 0.86 であった。

尺度の内的一貫性および併存的妥当性の検討に用いたのは、20-65 歳の統合失調症患者 55 名のデータであった。性別は男性対女性が 39:16、平均年齢は 35.69(SD=8.68)歳であった。PSYRATS-J 幻聴スコアの Cronbach's α は 0.94、PSYRATS-J 妄想スコアの Cronbach's α は 0.87 であった。

PSYRATS-J 幻聴スコアの合計は、PANSS

の「幻覚による行動」と有意な相関を示し (Spearman's rho 0.55, $p<.001$) PANSS 陽性症状の合計点とも、有意な相関を示した (Spearman's rho 0.37, $p<.001$) (表 1)。

PSYRATS-J 妄想スコアの合計は、PANSS の妄想スコアと有意な相関を示し (Spearman's rho 0.38, $p<.001$) 陽性症状の合計点とも有意な相関を示した (Spearman's rho 0.44, $p<.001$) (表 2)。

D . 考察

CBTp の効果測定に関係した先行研究で用いられている PSYRATS-J は、評価者間で十分な高さ (>.08) の級内相関係数を示したことから、評価者間信頼性が認められた。

PSYRATS-J の幻聴尺度、妄想尺度の Cronbach's α が共に 0.8 以上を示したことから、下位尺度には十分な内的一貫性が認められた。

PSYRATS-J の幻聴スコアも妄想スコアも、PANSS の陽性症状スコアを有意な相関を示し、それぞれ該当する下位尺度同士 (PSYRATS-J 幻聴スコアと PANSS の「幻覚による行動」; PSYRATS-J 妄想スコアと PANSS 妄想スコア) が有意な相関を示したことから、PSYRATS-J には併存的妥当性が認められたといえる。

PSYRATS の外国版については、スペイン語版、マレーシア語版、ドイツ語版の信頼性妥当性が検討されており、いずれも内的一貫性と、下位尺度の PANSS ないし Krawiecka scale との併存的妥当性が確認されており、日本版でもほぼ同様の結果となった。

E . 結論

PSYRATS-J は、十分な内的一貫性、評価者間信頼性を示し、精神病測定尺度との併存的妥

当性を示した。今後の本邦における CBT for Psychosis の効果研究において有用なアウトカム尺度の一つになると考えられる。

F . 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 朝波千尋、菊池安希子：精神病症状評価尺度日本語版（The Psychotic Symptom Rating Scales Japanese Version: PSYRATSJ）の信頼性および妥当性の検討.第 11 回日本統合失調症学会，群馬，2015.3.25.

G . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

<参考文献>

- 1) Haddock G, McCarron J, Tarrier N, Faragher EB. : Scales to measure dimensions of hallucinations and delusions: the psychotic symptom rating scales (PSYRATS). Psychol Med,29(4),879-889, 1999..
- 2) Wahab S, Zakaria MN, Sidek D, Abdul Rahman AH, Shah SA, Abdul Wahab NA : Evaluation of auditory hallucinations in patients with schizophrenia: A validation study of the Malay version of Psychotic Symptom Rating Scales (PSYRATS) . Psychiatry Res 228(3), 462-467, 2015.
- 3) Kronmüller KT, von Bock A, Grupe S,

Büche L, Gentner NC, Rückl S, Marx J, Joest K, Kaiser S, Vedder H, Mundt C.:Psychometric evaluation of the Psychotic Symptom Rating Scales. Compr psychiatry 52(1), 102-108, 2011.

- 4) Gonzalez JC, Sanjuán J, Canete C, Echánove MJ, Leal C.: Evaluation of auditory hallucinations:the PSYRATS scale. Actas Esp Psiquiatr 31(1),10-17,2003.

表1. PSYRATS-J幻聴項目とPANSS陽性症状項目との相関係数(N=30)

	PANSS陽性症状項目							
	陽性症状 合計	妄想	概念の統 合障害	幻覚によ る行動	興奮	誇大性	猜疑心	敵意
PSYRATS 幻聴スコア	.374*	.136	.360	.554**	.272	.089	.352	.049
頻度	.458*	.160	.428*	.579**	.352	.144	.432*	.121
持続時間	.396*	.154	.395*	.567**	.323	.095	.263	.245
場所	.395*	.270	.217	.734**	.230	.172	.137	.097
声の大きさ	.302	.136	.286	.449*	.147	.036	.156	.121
声の起源についての信念	.230	.127	.261	.438*	.186	.109	-.012	-.067
否定的声の割合	.313	.125	.187	.541**	.147	.116	.378*	.099
否定内容の程度	.388*	.107	.292	.432*	.414*	.206	.443*	.293
苦痛な声の割合	.312	.093	.306	.507**	.244	.104	.294	.111
苦痛の強さ	.276	.057	.297	.502**	.168	.118	.281	-.017
声による生活の支障	.352	.100	.383*	.482**	.259	.047	.349	.250
声のコントロール可能性	.086	.183	.229	.233	-.102	-.161	.134	-.291

** . $p < .001$ * . $p < .05$ Spearman's rho

表2 PSYRATS-J妄想項目とPANSS陽性症状項目との相関(N=48)

	PANSS陽性症状項目							
	陽性症状 合計	妄想	概念の統 合障害	幻覚によ る行動	興奮	誇大性	猜疑心	敵意
PSYRATS 妄想スコア	.443**	.379**	.237	.599**	.139	.150	.210	.141
妄想の心的占有度	.222	.125	.161	.382**	.077	-.009	.124	.039
妄想の持続時間	.287*	.197	.192	.422**	.060	-.029	.181	.142
確信度	.273	.259	.202	.373**	.125	-.002	.065	.118
苦痛な妄想の割合	.441**	.374**	.164	.558**	.138	.239	.276	.157
苦痛の強さ	.465**	.423**	.195	.551**	.148	.172	.283	.100
妄想による生活の支障	.287*	.251	.208	.336*	.004	.269	.163	.078

** . $p < .001$ * . $p < .05$ Spearman's rho